

## 高大連携事業を通じた理系人材育成教育の推進

(徳島大院理工) ○三好 徳和

Promotion of Education for Human Resources Development in Science through Collaborative Projects between High Schools and Universities (*Graduate School of Science and Engineering, Tokushima University*) ○Norikazu Miyoshi

Since moving to Tokushima University in April 1994, he has been Deputy Director of the General Education Center, which coordinates the first year education of Tokushima University, and Chairman of the Chemistry Education Council of the Chugoku and Shikoku Branch of the Chemical Society of Japan (CSJ). Became chairman of the Chemistry Grand Prix and Olympiad Committee of CSJ, and he has practiced collaborative projects from enlightenment activities for human resources in science on a nationwide perspective, to education for leading human resource joined to the Chemistry Grand Prix and the International Chemistry Olympiad.

**Keywords :** *Human resources, Chemistry Grand Prix*

演者は 1994 年 4 月に徳島大学へ赴任して以来、徳島大学の初年次教育をコーディネートする全学共通教育センター副センター長、日本化学会中国四国支部化学教育協議会委員長を歴任し、現在日本化学会化学グランプリ・オリンピック委員会委員長に就任し、全国的視野に立った理系人材育成のための啓蒙活動から、化学グランプリや国際化学オリンピック等の先導的人材育成にも発展する連携事業を実践している。

その中で 2010 年前後から徳島県内で現在も続く大きな 3 つの事業①県内の理系生徒育成事業として「大学受験にも役立つ出張講義」、さらに「科学への誘い—Advanced—」と題した先進的な実験教室、②「SSH および科学部課題研究研修会」として、120 名を超える生徒が参加するワークショップ、③最近全国で行われたが、最も古い徳島の「化学グランプリ講習会」への協力と参画を行っている。2020 年にはコロナ禍により種々の高大連携事業が実施困難になったが、いち早く Web によるリモート実施を探り、上記の事業も途切れることなく実施した。これらはネットワーク機器を用いた実践例のモデルとなりうると考えられる。

さらに、2016 年に化学グランプリ・オリンピック委員会委員長に就任し、国際科学オリンピック生徒派遣 7 団体による「日本科学オリンピック委員会」の創設を推進した。

一方、2020 年初頭よりコロナウイルスの感染拡大により、化学グランプリ事業の実施そのものが危ぶまれた。予断の許さない状況が続いたが、一次並びに二次選考共に Web 試験とすることで 2020 年並びに 2021 年共に何とか事業を継続することができた。また日本科学オリンピック委員会にて情報共有することにより、一次選考での他団体の欠点を化学グランプリでは補うことができ、逆に化学グランプリの工夫が、他教科の実施に参考になった。

これらの実践してきた内容について紹介する。